

[話題提供] 西湖におけるクニマス資源の動向

[要約] 2021 年秋のクニマス資源量は 17,030 尾（1 歳以上、寿命 6 歳とした場合）と推定された。過去最高となった 2020 年の推定 12,087 尾よりさらに多くなった。

[担当] 山梨県水産技術センター・スタッフ・名倉盾

[分類] 研究・参考

[課題の要請元] 食糧花き水産課、西湖漁業協同組合、富士河口湖町

[背景・ねらい]

クニマス保全に悪影響を及ぼしうる要因として、ヨーロッパウナギによるクニマス卵の食害や、産卵場湖底湧水が少なく局地的であることが明らかとなり、現在、産卵保全を目的とした実態調査や駆除技術開発に取り組んでいる。これら試験研究の基礎資料となるクニマス資源量を推定し、その動向を評価する。

[成果の内容・特徴]

1. 2021 年秋の推定資源尾数は 17,030 尾（1 歳以上、寿命 6 歳とした場合）となり、過去最高となった 2020 年の資源量よりも増加し、2012 年以降最高水準の資源量と推定された（図 1）。
2. 2013 年以降の試験釣獲では採捕されなかった 1 歳魚が 2020 年に 22.2%、2021 年には 12.2%の割合で採捕され、1 歳魚加入量の増加に伴い資源量が増加したと考えられた。また、2 歳魚についても 2020 年に 44.4%、2021 年は 31.7%と 2019 年以前より増加した（図 2）。
3. 1 歳魚加入量増加の要因としては、2018 年（2020 年の 1 歳魚誕生年）、2019 年（2021 年の 1 歳魚誕生年）の降水量が多かったことから産卵場の湖底湧水が増加し、産卵環境が改善したためと推測された（図 3）。加えて、クニマス卵を食害していたヨーロッパウナギの出現頻度が低下したことや、餌を巡って競争関係にあるワカサギの放流量が 2012 年と比較して半分以下になっていることもクニマス生存に有利に働いた可能性がある。

[成果の活用上の留意点]

ヒメマスに混じり少数が釣獲されるクニマスの資源推定を直接行うことは困難である。資源推定値はクニマス・ヒメマス混合尾数にクニマスの採捕比率を掛けて得られる精度の粗い概算値であり、資源変動傾向を把握するための概ねの目安として捉えることが望ましい。

[期待される効果]

クニマスの生息状況を推定し、保全対策を図る基礎資料となる。

[具体的データ]

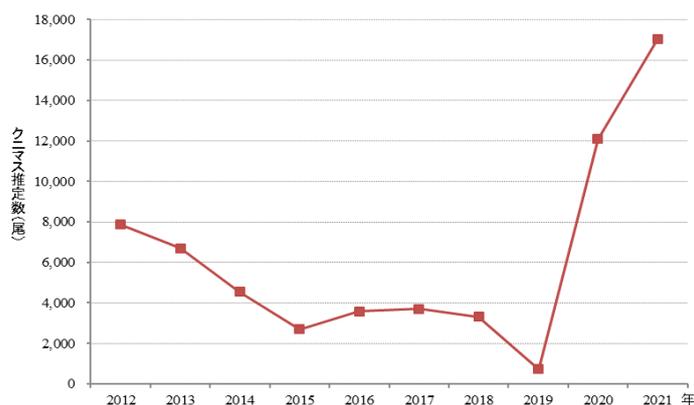


図1 クニマスの推定資源尾数 (1歳以上、寿命6歳とした場合)

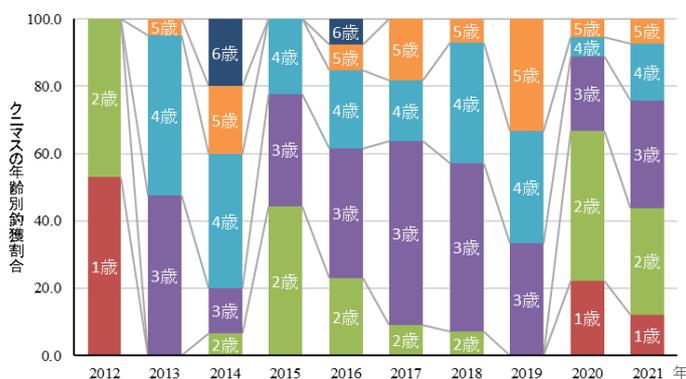


図2 試験釣獲したクニマスの年齢比率



図3 富士河口湖町の年間降水量

[その他]

研究課題名：①クニマスの生態解明及び増養殖に関する研究、②クニマスの保全並びに活用に関する研究、③クニマスの保全及び養殖技術に関する研究

予算区分：県単（総理研）、県単

研究期間：①2012～2014年度（プレ研究・2011年度）、②2015～2017年度、③2019～2021年度（プレ研究・2018年度）④2020年度～

研究担当者：名倉 盾、芦澤晃彦、青柳敏裕、加地弘一、藤原 亮、谷沢弘将、岡崎 巧、三浦正之、小澤 諒、平塚 匡、坪井潤一